



今倉山にて 2023年11月 撮影：千葉 雅子

～目 次～

- | | | |
|------|---------------------------------|----------------|
| p. 1 | 1. KECA 会員の皆さんへ | 理事長 真砂 文夫 |
| p. 2 | 2. KECA のこれからの方向性をみんなで考えていきましょう | 河野 健三 |
| p. 3 | 3. 第二回中小事業者の為の SDGs セミナーの報告 | 組織基盤強化PG7 守谷喜芳 |
| p. 4 | 4. 「エコルとごし」・「容器文化ミュージアム」見学記録 | 中村城治 |
| p. 6 | 5. 「名瀬谷戸の会」見学報告 | 杓谷 信一郎 |
| p. 6 | 6. 環境出張講座プロジェクト活動報告 | 岡本 正義 |
| p. 8 | 7. 新入会員の紹介 | 河野 健三 |

1. KECA会員の皆さんへ

理事長 眞砂 文夫

いよいよ2023年も師走を迎えました。この1年皆様にとってどのような年になりましたでしょうか。昨今の環境に対する懸念をどのように捉えていらっしゃるでしょうか。私の一番の関心は気候変動、とりわけ、気温上昇がどうにも止まらないというのが一番悩ましいこととっております。12月3日の新聞報道では、1991年から2020年の気温に対して2023年の3-5月、6-8月、9-11月ともに高く、9-11月では1.39度も高かったとのこと。現在世界が取り組んでいる1.5度の温度上昇に留めたいとっている中でその抑えたい目標にどんどん拮抗してきているという事です。私の身近な生活の中でも、港北区新羽の畑で栽培している野菜の苗、種の店頭に並ぶ時期が例年に比べて1ヶ月早まり、油断していると欲しいものの苗が販売を終わっていて、今年は大慌てで4軒走り回ることになりました。とても身近な問題と捉えて間違いないと思っています。

また、2020年に発生したコロナの感染も5月に5類に移行して以来、先週のデータでは連休明けの60%に収まり、街中での表を歩く人達のマスクのつけ具合がかなり緩和されてきたという印象をお持ちかと思えます。

さて、本部施策の面ですが、12月初めにお伝えしました通り、市役所環境策部署への訪問を11月27日で終了し、そのまとめを一覧表にしてお送りしました。回っての感想は、どの市役所においても、職員の人手不足と知識不足で環境対策（特に環境教育とイベント）には大変熱が入っている割には外部団体との協働が不足していることがわかりました。12市役所の中で、職員が自主的か、やむを得ずかは別として、自前講師でやろうとしているところは大和市と南足柄市の2カ所、残りの市はすべて地元か横浜からの外部人材の力を借りて進めていることがわかりました。

KECAも地元の皆さんと関わりを持って進めておられる所もありますが、その大半の所は残念ながら実績も接触もないまま他の環境団体に取り込まれていることがわかりました。来年は是非、地元のKECAの皆さんで地元の行政に力を貸してあげてください。それが、KECAの掲げる「市民・企業および行政とのパートナーシップの形成とSDGsの実現に努め、環境に配慮した地域社会づくりに貢献する」の活動方針を実現することで、各人の持てる力を発揮できる場の一つでもあります。

どうか、1人で出来ないところはこの指止まれ方式で仲間を集めてください。今回、回ってみて、手を貸していただく仕事は沢山あることが十分わかりました。後は、皆さんの自主活動の気力と体力で地域の環境活動にどれだけ取り組めるかにかかっていると思います。

2023年から支部を横浜だけにして、他を地区に変えました。川崎地区・県央地区で5人、湘南で4人、それ以外の地区では2名であり地区としての活動はなかなか難しいものと考えての事です。幸い横浜地区以外に地区ごとの連絡係（お世話役の会員様）を設けさせて頂きました。何も無い中ではお願いすることはありませんが、会員の皆さんの地域での相談の拠り所として役割をお願いしました。当面は、12月に差し上げた各地区の市役所での環境教育、環境イベントへの協働に対する働きかけをどうするかという点でしょうか。地区毎に設けた地区メーリングリスト等を活用されチームづくりをされて動かれては如何でしょうか。地区を超えて取り組まれることもお勧めします。

また、横浜支部（河野支部長）が2022年から取り組んでおられる「ZOOMによる浜定例会」がございいますが、これは支部の廃止を先取りして2年前から取り組んで頂いているもので、既にこの12月で25回目を迎え、毎月開いています。内容的には会員の皆さんの活動事例をZOOMでお話頂くものですので、横浜支部以外からの参加もして頂いています。

2024年からはこれに加えて県内の地区の皆さんにもお声掛けしてコロナ前に実施していた「自然観察会」「施設見学会」も最寄りの地区に集まって開催しようかという話もしております。ちなみに、12月は湘南の中村会員から東京都品川区にある「エコルとごし」・「容器文化ミュージアム」見学の様子をお話頂くと聞いております。

このような訳で、コロナも収まり、巷では、「海外から人手も、国内の年末年始の移動も」今年最高とされています。おそらく来週からの忘年会も最高の盛り上がりが見込まれています。

12月8日には二度目の「SDGs事例セミナー」を開催しました。また、来年開催予定の環境インストラクター資格取得認定セミナーも2024年の皮切りとして年内応募者が続いております。どれもリアル開催です。例年開くKECA総会も今年と同様にリアルで開催することを既に決めております。

是非、KECAの活動もコロナ前の2019-2020年を思い返して動き回られることを期待して年末のKECAニュースの近況の投稿といたします。

2. 【会員投稿】 「KECAのこれからの方向性をみんなで考えていきましょう」

～まず、お互いを知り合うことから始めたい～

横浜支部 河野 健三

はじめに

- (1) KECAは今年、1998年3月の設立から25年目を迎えました。今までの活動を振り返り、これからのKECAの活動の方向性を考えていく時期に差し掛かっていると考えています。
- (2) KECAの今までの主な事業活動は、子供たちへの環境教育と環境教育インストラクターセミナー、事業者への環境経営支援に集約されると思います。2020年からはKECAの活動の幅を広げるべく、プロジェクト活動を開始しました。
- (3) 一方、会員の皆様はそれぞれの地域でご自分の活動をされており、(2)で述べたKECAの活動との連携は取れておりませんでした。これからのKECAの方向性について、KECAの事業活動と会員の皆様の活動を繋ぐ仕組みづくりが必要ではないかと考えています。
- (4) 2021年に立ち上げた浜定例会はそのお手伝いが出来ると思います。会員の皆様の自主的活動にKECAとしてお役に立てることはないか、浜定例会で考えていきたいので宜しくお願い致します。

1) 会員の皆様一人ひとりの活動を大切に

- (1) 会員の皆様の自主的活動の中で、仲間を集めたいと考えられている方は浜定例会でその活動について話題提供してください。当方がお役に立てることはないか、考えていきます。
- (2) 会員の皆様の活動とKECAの既存事業・プロジェクト活動との組み合わせが出来ないか、ご相談しながら進めていきます。

2) KECAとして共有できるスローガンを決めたい

- (1) 私はKECAとして一体感をつくり、仲間づくりを進めるにはスローガンを決める必要があると考えています。日本の抱える課題は何か。それは普段の生活に欠かせない「食料」と「エネルギー」ではないか、これらを海外に頼っている現状はこのままで良いのか。
- (2) 食料とエネルギーの自給力を上げることはKECAの大切な役割ではないかと考えています。現在、様々な取り組みが行われていますが、国民の意識はそれほど大きくないと思います。KECAのスローガンとして「食料とエネルギーの自給率向上」を掲げてはどうでしょうか。

3) 浜定例会と持続化給付金の活用

- (1) 活動を進めるには仲間とお金が必要です。KECAには2020年12月に国から頂いた持続化給付金(114万円)があります。
- (2) 浜定例会で情報交換しながら、KECAの仲間づくりと新しい事業の立ち上げに持続化給付金を活用していきたいと思います。

以上

3. 第二回中小事業者の為のSDGsセミナーの報告

組織基盤強化PG7 守谷喜芳

【日時】 2023年11月24日(金)・12月8日(金) 13:15~17:00

【会場】 横浜市西区社会福祉協議会多目的研修室(3階)

参加者 3名 世話役4名

<第一日目>

1. 第二回 中小企業のSDGsの概要

NPOかながわ環境カウンセラー会員 守谷 喜芳

2. SDGsの実施事例紹介

NPOかながわ環境カウンセラー会員 眞砂 文夫・河野 健三・守谷 喜芳・中村 城治

3. 纏めと宿題の説明

NPOかながわ環境カウンセラー会員 中村 城治

<第二日目>

1. 宿題の発表(モデル企業のSDGs企画書発表)と講評

NPOかながわ環境カウンセラー会員 中村 城治

2. SDGsの活動報告のまとめ方・活動事例集

NPOかながわ環境カウンセラー会員 守谷 喜芳

3. SDGsの実態調査報告

NPOかながわ環境カウンセラー会員 中村 城治

昨年の一回目セミナーに反省点を加え、半日×二日間のセミナーを行いました。一番の変更点は、KECAの4人が、得意な業界の中で中小企業がSDGsを進めた2事例を説明しました。報告後の質疑応答によりSDGsの理解を深めたようです。二日目は、宿題になったSDGs企画書を各個人が発表し、それぞれについて質疑応答と世話役の講評が、前回に比べて充実した内容でした。

閉会の挨拶で、眞砂理事長から、「SDGsを自分事と考えてやるが良い会社にする事で、また長く続けることが大切なことだ」と話されましたので、皆さんも納得して帰られました。



参加者の近くで説明する中村講師



眞砂理事長の閉会挨拶

4. 「エコルとごし」・「容器文化ミュージアム」見学記録

～最新の環境学習交流施設と容器包装の歴史を探る～中村城治(中村技術士事務所)

2023年12月4日開催の、一般社団法人廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会の上記見学会に参加したので、その概要を報告します。なお、12月21日に開催された「はま例会」の場でも、Zoomにより話題提供したことを申し添えます。

(1) 品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」

本施設は品川区豊岡 2-1-30 に令和4年5月に開館した最新の「環境学習交流施設」であり、「つなぐ つづける つくりだす ～エコなミライへ～」を狙いとして計画され、施設の計画・展示のコンセプト・イベントの企画等について種々の工夫を凝らしている。特に展示については高度な映像技術を駆使し、映像展示室では来訪者の年齢に応じて「バランスプラネット(写真 1-1)」や「いきものタッチ」等の映像を通じて環境知識の啓発を行っている。また、1秒・1日・1年・10年と言った「ジカン」をキーワードに身近な視点で様々な体験を出来る様に先進的な展示をしている。



写真 1-1 映像展示室の状況



写真 1-2 「トイカケのジカン」(1秒の展示)

また、来館者の思いを込めた「ミライのタネ」をリサイクル紙に書いて頂き、再生紙のポッドに植える、メッセージ展示室のコンセプトが印象的であった。一方、本件施設は ZEB(Net Zero Energy Building)の認証施設でありエネルギー削減率が75%以上の Nearly ZEB を都内公共施設として初めて認証を取得した(削減見込み 91%)。



写真 1-3 「ミライのタネ」のメッセージ



写真 1-4 こんな所にも「自然風換気窓」

その為、館内の諸設備は最新の機器に加え工夫を凝らして設置しており、写真 1-4 の「自然風換気窓」等のきめ細かな工夫や、外壁を覆うツタの漏水装置(写真 1-5)も設置され、太陽光発電量や地中熱活用の表示パネルでの紹介もあった。(写真 1-6)



写真 1-5 外壁を覆うツタの漏水装置

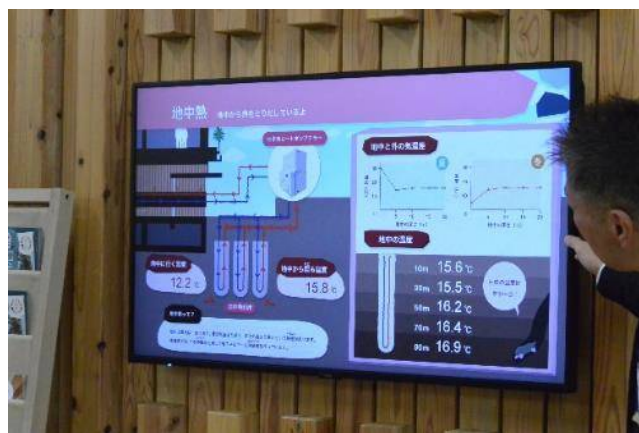


写真 1-6 「地中熱活用」のパネル表示

(2) 東洋製缶 GH(グループホールディングス) 「容器文化ミュージアム」

「容器文化ミュージアム」は品川区東五反田 2-18-1 の東洋製缶 G の本社ビル 1F に設けられ、同社の製品を含めた、「容器包装文化」の歴史的・社会的な活動を広く展示したミュージアムである。展示場には写真 2-1～2-4 に示す様に、ナポレオン時代～戦前～現代に至るまでの興味深い展示物やパネルが並べられ、「容器包装の歴史と文化、そして未来」を学ぶことができる。身近にあるピン・カン・PET の栄枯盛衰の歴史はわが国の食文化の歴史と深くリンクしているとの思いを改めて認識した。



写真 2-1 ナポレオン時代の食品保存瓶



写真 2-2 旧海軍納入の「赤飯缶詰」



写真 2-3 懐かしのピン・カン・PET



写真 2-4 容器に関する文化の関連パネル

以上

注記 掲載写真は著作権法により保護されています。無断での転載・引用はご遠慮下さい。

5. 「名瀬谷戸の会」見学報告

杓谷 信一郎

10月23日月曜日、大竹順之さんにご案内いただき、「名瀬谷戸の会」の活動現場を訪問しました。場所は、横浜市戸塚区名瀬町にある谷戸(谷間)です。境川水系柏尾川支流の名瀬川流域で、この辺りは数多くの谷戸があります。懐かしい自然が残された古民家レストランのある谷戸からその里山にかけての一帯で、終日ここで過ごしたくなるような場所でした。

現地で、「名瀬谷戸の会」会長の田中真次さん(森林インストラクター・環境カウンセラー)にお会いし、説明や興味深い話を聞きながら森林浴ができました。2015年にこの地主さんから放置され荒廃した里山の回復を依頼され、森林インストラクターの仲間や地元の人達と一緒に、薄暗い竹林等の伐採整備を始めたそうです。今では木漏れ日の入る、手入れされた本来の里山になり、地元の子供達の自然学習の場にもなっています。広さは7.8haで「名瀬北特別緑地保全地区」として保護されています。ここではヤマザクラが多く、谷戸の入り口にはヤマナシの木もあり、宮沢賢治の童話にもあることを知り、興味深く思いました。また池や小さな田んぼやピザ窯もあり、いろいろと活動していることが判りました。

「名瀬谷戸の会」は任意団体として、「里山保全活動と里山環境教育の一体化事業」を中心とした活動をしています。会員数は160名程で、この日は活動日で、シニア世代の方が大半でした。竹林・広葉樹林等の整備の他、自然観察会、地元の小学校の里山環境教育等をしていて、子供達の参加がとて多いことも特徴です。田中会長から緑の伝統色の話を伺いましたが、日本には緑と言っても萌葱(もえぎ)色等数々の動植物の色があり、そのことを里山の中で実感させ、子供達に関心をもたせたりもしています。緑の線香はスギから作られていることも教えてもらいました。

後日、田中会長から環境教育プログラムの資料をいただきましたが、行政、企業、市民活動団体との連携・協働や活動運転資金確保の他、新しい学習指導要領に沿った内容であるかが重要であることを知りました。そこには、「社会に開かれた教育課程」という理念があり、社会との連携・協働が謳われ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が求められています。「名瀬谷戸の会」では、それらが行われているのだと思いました。

その他、この里山の中心となっている古民家レストランでは障がい者の人達が就業訓練で働いているそうです。里山整備だけではなく、「名瀬谷戸の会」を中心に地元の人達が地元を愛し、より良く発展していくことを願います。

以上

6. 環境出張講座プロジェクト活動報告

岡本 正義

令和5年4月に岡本が環境教育委員会から独立して、環境教育出前授業・講座・セミナー等を自治体や学校、支部、地域と連携して実施するプロジェクトを立ち上げました。

KECAの組織基盤強化プロジェクトの1グループとして位置付けて活動を進めています。

令和5年度として、5月から10月まで8回授業、講座を実施しましたが、今月のKECAニュース75号では、そのうちの最初の4回を報告します。

No.1 5月14日(日)相模原環境フェア出展：相模原支部との連携

相模原支部と連携して、市民を対象に田んぼ、野原、畑の3種類の「食物連鎖モビール」を展示して、自然界では生き物は食べる・食べられるの関係で生存していることを紹介した。



展示物一覧、モビール
や折紙は希望者に渡した



食物連鎖ってどういう
ことですか？



草に隠れている虫
探しをしました



ここに虫がいるよ
子どもが見つけた

参加者は約 100 人。生き物の力、不思議さを分かってもらえたと思います。

No.2 6月20日(火) 県からの委託授業 横浜市立あざみ野第二小学校

生物多様性の一環として「見つけよう！葉っぱや鳥、虫のすごわざ」をテーマに小学生3年生3クラス(98名)に実験・体験を主体とした授業を実施した。生き物としてハスの葉っぱ、フクロウ、モルフォチョウの特徴を利用した製品は、ヨーグルトがくっつかない蓋、騒音が少ない新幹線、色が退色しないカラーパネルの車

である。撥水性のハスや蓋を使った水運びゲーム、フクロウの羽は振っても音がしない、光の反射で色が出るCD、タマムシ、孔雀などを体験して発色とは？を実感した。



ハスの葉を使った水運びゲーム



フクロウの羽と新幹線の謎とは？



光の色の不思議を観察

No.3 6月25日(日) さがみはら環境まつり出展：相模原支部との連携

相模原支部と連携して、生物多様性の一環として「木の香りを楽しもう」を実物の樹木を使って、クイズ形式で出展した。樹木としては、月桂樹、サンショウ、クスノキの葉などの香りを嗅いでもらい、何の木であるかを当てる。それらの香りの役割や生活での効能などを話し合った。これら3種類以外にペパーミントやアロマティカスなどのハーブ類も展示して香りを楽しんでもらった。クスノキは衣類の虫よけとして古来からわが国では、樟脳として使われてきたが、最近は代替品が普及していて、参加者が知らないことにビックリした。



KECAの展示ブース



ほとんどが親子での参加でした



2Lのペットボトルを
活用して香り器具を作りました

参加者は、約 150 人、ほとんどが親子連れでした。参加者には香りにアレルギーの方もいたが、予め基本認識として心の準備はしていたので、問題はなかった。

No.4 8月14日 横浜市からの委託授業 本牧南小学校放課後キッズクラブ

「見つけよう！葉っぱや鳥、虫のすごわざ」をテーマに、小学1年生から5年生まで11人が実験・観察を主体にして、生き物の機能をまねた製品の素晴らしさに気付いてもらった。

オナモミのとげをルーペで観察して、くっつく性質を利用し、まと当てゲームで楽しんだ。ハスの葉の表面は、水滴が丸くなる。これを利用したヨーグルトのふたは、ヨーグルトがくっつかない。水滴実験と表面観察を行った。ふくろうやカワセミのすごわざを動画で見て、新幹線が静かになったことにビックリしていた。



1年生から5年生まで11人が3グループに分かれて実験をした

オナモミがくっつく性質を利用してまと当て体験をした

ハスの葉と同じようにふたも水をはじいて水滴となった

以上

7. 新入会員の紹介

河野 健三

11月に平塚市在住の真 章洋(しん あきひろ)さん、12月に藤沢市在住の志賀 清隆(しが きよたか)さんが入会されました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

【編集後記】

かけがえのない地球を未来の世代に受け渡すために、当協議会は環境保全と世界平和を願い、環境活動をしてまいります。

表紙画像について；11月に今倉山（山梨県の道志市と都留市の境にある山）に行った時の画像を掲載しました。紅葉が綺麗でした。（千葉）

発行日；2023年12月26日

〔発行〕特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：真砂文夫

編集：広報部会（山口和之、千葉雅子）

◇住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1
横浜ワールドポーターズ6階 NPO スクエア内

◇電話：090-7248-8383

◇Eメール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：https://www.keca-kanagawa.com/